

[報告] 初めての学びや経験の多かった第40回歴史地震研究会

栄東中学校¹ 徳田 光希

栄東高等学校² 荒井 賢一

The 40th General Meeting where we learned and experienced a lot about earthquakes

Koki TOKUDA

Sakae Higashi Junior High School, 2-77 Suna-cho, Minuma-ku, Saitama City
Saitama, 337-0054 Japan

Keni'chi ARAI

Sakae Higashi Senior High School, 2-77 Suna-cho, Minuma-ku, Saitama City
Saitama, 337-0054 Japan

We attended the 40th General Meeting of the Society of Historical Earthquake Studies for three days from Sept.1 of 2023. The meeting was held to mark the 100th anniversary of the 1923 Kanto Earthquake. For the author Tokuda, it was my first opportunity to visit the conference venue. We learned and experienced a lot. The meeting was composed of the Research meeting and open Lecture meeting in Odawara City, and of the Field activity in Kamakura City. We were interviewed by NHK about our poster presentation.

Keywords: 40th General meeting, the 1923 Kanto Earthquake, Odawara City

§ 1. はじめに

大正関東地震から100年の節目にあたる2023(令和5)年9月1日(金)~3日(日)の3日間、第40回歴史地震研究会が開催された。大会1,2日目の2日間は、小田原三の丸ホール(神奈川県小田原市)で研究発表会が行われた。また、3日目の午前中は神奈川県鎌倉市で巡検が行われ、同日の午後は前述の小田原三の丸ホールで公開講演会が開催された。主催者の歴史地震研究会の幹事会によると、研究会には115名、懇親会には61名、巡検には45名が参加をされた。私(著者の徳田)にとって、現地で開催された学会に参加する初めての経験であった。

§ 2. 研究発表会

小田原三の丸ホールは、小田原城のすぐ東に位置する。1日目は、小ホールにおいておこなわれた口頭発表(図1)で幕をあけた。

2.1 口頭発表

1日目午前の口頭発表のテーマは「大正関東地震」であった。私の研究対象もこの関東地震であり、学ぶことが多くあった。なかでも印象に残ったのは、今村(2024)による「神奈川県小田原市 米神で起こった山津波」に関する研究(O-02)である。山津波という

言葉を初めて知り、それにより60人以上の死者が出ているということに驚いた。また、残っている資料から、山津波がどのような経路でなだれ下ったのか推定していたことが特に印象深かった。

1日目午後と2日目の口頭発表では、私の知らない地震や被害の状況を知ることができた。特に印象に残ったのは、佐竹・石橋(2024)による「歴史上のM8級関東地震の発生履歴と将来の発生確率」という研究である(O-21)。ここでは、知っている地震が多かったものの、それを統計的に分析しており理解しやすく、新たな学びの多い研究であった。テレビでよく言われている確率の出し方や意味を学べた。

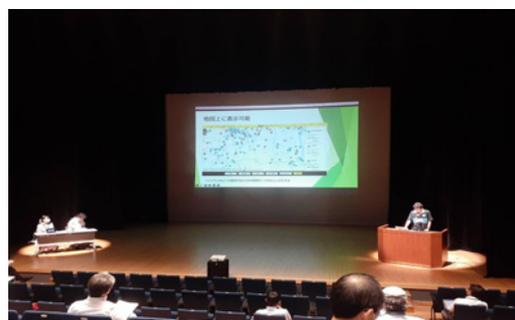


図1. 研究会での口頭発表の様子
Fig.1 Oral presentation at the meeting.

¹ 〒337-0054 埼玉県さいたま市見沼区砂町 2-77
電子メール: sh_rikaken.koki@ymail.ne.jp

² 〒337-0054 埼玉県さいたま市見沼区砂町 2-77
電子メール: rikaken_sh@yahoo.co.jp

2.2 ポスターセッション

大会 1 日目と 2 日目の 14 時～は、小田原三の丸ホール内のギャラリー回廊において、ポスターセッションが開催された(図 2)。私も、「埼玉県所沢市における企画展『関東大震災百年』の報告」というテーマ(P-03)で発表をさせて頂いた(徳田・荒井(2024))。ポスターセッションは、多くの方と自身の研究内容について深く討論を重ねることができ、様々なアドバイスを頂くことができるので、とても楽しい場であった。また、口頭発表と比べるとより質問をしやすく、わからないことがあればその場ですぐに聞くことができ、学ぶことも多かった。



図 2. 研究会でのポスターセッションの様子
Fig.2 Poster Session at the meeting.

2.3 懇親会

大会 1 日目の終了後、報徳会館(小田原市城内 8-10)の宴会場「天空」にて、懇親会が開催された。懇親会は立食形式で、歴史地震を研究している研究者の方々とのコミュニケーションを深め、研究に関する意見交換もできた。自身の研究を他の研究者から評価頂き、今後の展望について参考になる部分が多かった。



図 3. 懇親会の様子
Fig.3 Scene of the social gathering.

§ 3. 巡検

大会 3 日目の午前中に、神奈川県鎌倉市での巡検が実施された。鎌倉地域の大正関東地震での被害や当時の地理的な特徴について学んだ。なかでも、「被害が大きかった地域は、過去には、埋め立てた川が通っていた」ことであった。実際に現地を訪れることで、過去に被害が生じた状況を具体的にイメージできた。このような野外巡検は初めての経験であり、興味深い内容であった。

この巡検では、鶴岡八幡宮にある鎌倉国宝館も訪れた。ここには、大正関東地震で崩れてしまった銅像などが展示されていた。特に興味深かった展示の 1 つとして、「作者不明だった銅像が地震により崩れ、中に入っていた巻物から作者を特定できた」ということに驚いた。



図 4. 鎌倉市での巡検の様子
Fig.4 Field activity in Kamakura City.

§ 4. 公開講演会

巡検を終えた大会 3 日目の午後は、小田原三の丸ホールで開催された公開講演会に参加をさせて頂いた。「大正関東地震後の帝都復興事業」や「横浜での関東地震の被害」等に関する講演を聞いた。講演会で聞いた話は、どれも初めて知り驚く内容ばかりであった。

ここでは、地震による地殻変動について書く。2024(令和 6)年 1 月 1 日に発生をした能登半島地震でも大規模な地殻変動が確認され、講演会で聞いた話題を思い出した。千葉県房総半島南部では、大正・元禄の関東地震に伴い生じた 2 段の海岸段丘と、さらに大小さまざまな規模の十数段の海岸段丘が存在する。隆起の程度は大小様々であるものの、関東地震が 200 年～400 年の間隔で発生していることが分かったと聞いて驚いた。規模の大きな地震がこのような間隔で起こるのならば、自分自身としての対策を強化しなければならぬと考えた。

§ 5. 第 40 回歴史地震研究会を終えて

第 40 回歴史地震研究会は、初めての対面での学会であった。また、参加者の方々が皆年輩であったため少し緊張をした。それでも、皆さんが優しく、そして私を一人の研究者として接して下さり、安心して参加をでき楽しかった。ポスターセッションでは、私の研究ポスターに関してNHKに取材を頂いた。そこで、記者の方より鋭い視点の質問を頂き、自身の研究を客観的に見ることができた。

歴史地震研究会を終えた令和 5 年 12 月に、研究対象としている埼玉県所沢市の大正関東地震の当時日記を書かれた北田様のお宅を訪問させて頂いた。地震が発生した当時の北田家や所沢市域のことについてお話しを伺い、日記に繰り返し記載のある庭の築山や石灯籠を拝見させて頂くことができた(図 5)。今後も、所沢市域に残る関東地震やその余震の 1 つである丹沢地震(1924(大正 13)年 1 月 15 日発生)のことが記された日記の調査を継続していく。研究の継続にあたり、実物を見学させて頂きお話しを伺えたことはたいへん有意義であった。



図 5. 日記に繰り返し記載のある築山や石灯籠の見学
Fig.5 Visiting Tsukiyama and stone lanterns.

謝辞

前述のポスター(P-03)のテーマである所沢市企画展『関東大震災百年』で発表をさせて頂いた各研究は、公益財団法人武田科学振興財団の「高等学校理科教育振興助成」を受け進めることができた。また、第 40 回歴史地震研究会の参加費と旅費に、同助成金を充当させて頂いた。上記の企画展の開催に際しては、木村立彦氏と下田真奈美氏をはじめ所沢市文化財保護課の皆様より、ご指導を頂いた。第 40 回歴史地震研究会を運営された皆様にも、参加・発表をさせて頂いたことに深く感謝を申し上げる。

対象地震:1923 年大正関東地震

文献

- 今村隆正, 2024, [講演要旨]100 年前「米神で何が起こったのか」,歴史地震, 39.
- 佐竹健治・石橋克彦, 2024, [講演要旨]歴史上の M8 級関東地震の発生履歴と将来の発生確率, 歴史地震, 39.
- 徳田光希・荒井賢一, 2024, [講演要旨]埼玉県所沢市における企画展『関東大震災百年』の報告, 歴史地震, 39.